

NEWS LETTER

福井大学 男女共同参画推進センター 第3号 H25.6発行

女性研究者交流サロンのご案内

毎月開催します。

女性研究者交流サロンのご案内

日時 6月7日(金)・13日(木)・21日(金)・27日(木)
11:30～13:30
(今回はランチミーティングを企画しました。各自ご持参をお願いします。
短時間のご参加・男性のご参加も歓迎します)

場所 総合研究棟 I 13F(文京キャンパス)
男女共同参画推進センター ミーティングルーム

※7日(金)・21日(金)は、カフェテリア休業で

この度、男女共同参画推進センターでは、研究、職場において日頃感じていることを自由に話し合う機会を設けるために「交流サロン」を企画しました。
仕事と生活との調和(ワーク・ライフ・バランス)やキャリア形成などについてご意見をいただくことができればと思いますので、お気軽にお立ち寄り下さい。



アドバイザーがコーディネーターと共にお待ちしております。
お問い合わせ 男女共同参画推進センター TEL/FAX(0776)27-9858
E-mail danjo@mli.c.u-fukui.ac.jp 内線(2206)
http://danjo.ad.u-fukui.ac.jp

男女共同参画推進センターでは、研究、職場において日頃感じていることを自由に話し合う機会を設けるために、「交流サロン」を企画しました。

仕事と生活との調和(ワーク・ライフ・バランス)やキャリア形成などについてご意見をいただくことができればと思いますので、お気軽にお立ち寄り下さい。

アドバイザーがコーディネーターと共にお待ちしております。

短時間のご参加・男性のご参加も歓迎します。

★場所

総合研究棟 I 13階(文京キャンパス)
男女共同参画推進センター
ミーティングルーム

★ちらしはHP上でもご覧いただけます。

★毎月、開催予定です。

アンケート実施にご協力をお願いします

センターでは全教職員を対象とした男女共同参画に関するアンケートを行います。このアンケート結果は、基本方針に基づき男女共同参画を推進するうえで、諸制度などについて周知をするとともに今後の具体的方策を実施する上での参考にします。

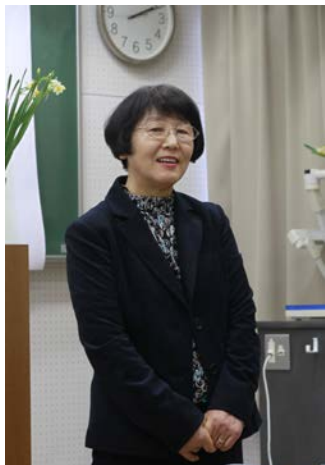
★7月にアンケートを実施予定ですので、是非ご協力をお願いいたします！



HPを開設しました。是非ご覧ください。http://danjo.ad.u-fukui.ac.jp/

ロールモデル紹介

水野 和子先生



●略歴

1968年
お茶の水女子大学
理学部化学科卒業
1970年
福井大学工学研究科
繊維染科学専攻修了
1970年
化学メーカー入社
1974年
福井大学工学部技官
1976年
福井大学工学部教務職員
1989年
名古屋大学理学博士学位取得
1992年
福井大学工学部助手
1998年
福井大学工学部
生物応用化学科助教授
2011年
福井大学工学研究科定年退職

●経歴

教職に就くつもりでいましたが、福井は翌年の国体開催県であったために、体育以外の教師の採用が無く、両親に頼んで福井大学の工学研究科で再び学ばせてもらいました。県内企業に入社し、研究職として働いていましたが、ゆっくりとした子供との時間を持てみたいという気がするようになって、退職しました。

その後、大学院修了時のS研究室で技官がいなかったのでやってみないかと誘われ、福井大学に技官として就職しました。S研究室で学生とのゼミをほとんど毎日と、S先生の研究に沿ったテーマで私なりに考えて、実験・研究を始めました。

S先生はアメリカで研究、仕事をされていたこともあり、英語論文の書き方をご存じで、厳しく指導されました。また、S先生はタンパク質の分析に関する装置の開発をしておられて、私もタンパク質を扱う研究に加わることで、高分子、生化学の領域に隠された問題を見出していくようになりました。

●研究の魅力は何ですか？

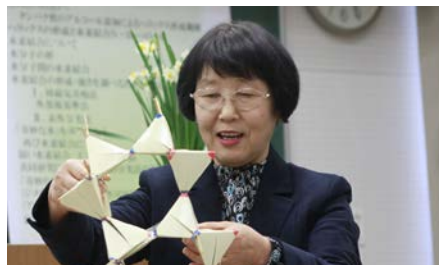
未知のものを自分で解明をしていけることです。新しい発見、自分しか知らない実験事実があること、自分の論文が公表されて、世界の人に知ってもらう(雑誌やインターネットで掲載される)ことです。内容の重大性は別にして、世界中で自分しか知らないことを持っているというわくわくした気持ちと、それを世間に知ってほしいという思いで、研究を続けてきました。ただ、家庭と子育ても大切にしたい、特に介護保険制度のなかった時期に寝たきりの祖母と同居していましたので、介護をしていた母をサポートするという目立たない役も大事でした。

*このコーナーでは、福井大学で活躍する女性研究者を紹介します。

●現在の研究および生活について

「タンパク質と水」、「アルコールなどの有機化合物と水」のように2成分系でおきる現象には未知のことが多く、それを明らかにしようとしてきました。身近な例でいうと、エタノールと水を混ぜると大量の熱が発生をします。その理由を解明してきました。

仕事と家庭の両立を心がけながら研究を続けてきました。家庭も大切にしたいという思いがありました。研究をしながら育児(年齢の離れた2人の子供)をし、現在は親の介護、夫のサポートをしています。自分ができないことを夫がしてくれているという意識があります。夫を助けて夫にもきちんと仕事をしてもらいたいという気持ちがあります。



(写真は、最終講義の様子)

●今後研究者を目指す若い方へのメッセージをお願いします。

IT技術を上手に利用することが大切です。インターネットの普及により、現在の研究者は世界中のどこの人とでもつながることができ、新しい情報を収集できます。また、研究そのものでもIT技術の利用が基本であり、私の場合、いつも学生に助けられてきました。私の場合は、福井にいても研究ができるのはインターネットがあるからです。世界中の情報が手に入り、世界にいる審査員に自分の論文を読んでもらえます。研究者を目指す人は自分のやっていることが、その研究領域の歴史の流れの中で持っている意味を問い続けることが要求されます。

そして、自分が苦労をしたので、国際学会で通用するためには、英語と日本語をしっかりと学ぶことが大切です。若い人には、世界にネットワークを広げて、英語に力を入れ、日本語も同じように勉強をして、若いうちから英語論文発表ができるように努力をしてほしいです。

また、出会いを大切にしてほしいです。お茶の水女子大学の先生方と、福井大学の先生方など様々な人と出会ったことで、今まで研究を続けられました。

女性研究者は夫の理解がないと続けていくことは難しいです。周りの方や家族、夫のサポートがあって成立します。両立は大変なことですが、様々なサポートを使って「継続は力なり」で頑張してほしいです。